

ゴールデンエイジふくい その歌声はなぜ胸を打つのか！ 取材でわかった「生きる喜び」

福井放送株報道制作局・専任局長 重盛政史

『おんがく広場』第267号(6月11日付)において既報の通り、福井県で活動する60歳以上限定の男声合唱団「ゴールデンエイジふくい」に密着したラジオ特別番組が、このほどギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞を受賞しました。全国の合唱関係者の皆様からも反響が届いており、さらに今回、執筆させていただく機会もいただきました。ご縁が広がり嬉しく思っています。

福井市で活動するゴールデンエイジふくいは2006年に結成。参加条件は60歳以上の男性で、音楽経験の有無は問いません。現在、64歳から最高齢94歳まで、平均年齢76歳の約70人の合唱団です。

私もそれまでYoutubeで彼らの合唱、特に「この街で」を見て、涙を流していましたが、この涙はいったい何だろう。70名にも及ぶ大合唱団だからこそその迫力が心を掴むのか？ 高齢の皆さんが歌うその姿にただただ心を奪われるのか？ 果たしてそれだけなのかと疑問を抱いていました。

なぜゴールデンエイジふくいの歌声が胸を打つのか

この命題に対し、テレビ番組や配信コンテンツでない、音声のみのメディアであるラジオ番組で表せないかと思ったのがそもそもの制作目的でした。コロナが5類へ移行した2023年、

ゴールデンエイジふくいも本格的に活動を再開します。



練習風景：指揮・田中幸一さん



贈賞式：(左)松田佳恵さん、(右)筆者

毎週火曜の練習日には、毎回60名以上が集まります。取材中には音楽監督で常任指揮者の田中幸一さん(83歳)の指導中のコメントが秀逸でした。

「なんでこの年齢になって色気がでないの？」とか「もっとこの歌詞は未来ある街を想像して歌ってほしい」とか。時には「思いやりの

合唱団でいよう。相手のパートを思いやること。そうすれば葬式の時も、あいつは自分の事ばかりだったとならず、みんなが喜んで送ってくれる」…等々、機智に富んだその指導で練習室を笑いに包みながら、しっかりとハーモニーを作り上げていきます。そして田中幸一さんは番組のインタビューにつきのよう

◆私は音楽教員でした。60歳が定年で、当時60歳が人間の成長の終点のように感じていたが、これをやり始めて60歳からでも成長することを知った。人生にこんな可能性があるとは知らなかった。歌のチカラってすごいですね。

◆私は指揮者というよりまとめ役。本当の指揮者には音楽がしっかりとそこにあり、そこに向かわせていくんだけど、私は、この人とこの人のいいところを寄せ集める道案内人役ですかね。

◆私たちは敷居の高い合唱団ではない。もちろんそんな合唱団も無ければだめ。大谷選手のような超一流の合唱団も無ければだめですが、私たちの合唱団は“人生に音楽というものに会えて幸せだったな”という活動なんです。

◆いい仲間ですよ。私たちは運動会で言ったら第4コーナーを回って来賓テントの前を走っている、ゴール直前の人間の集まりです。私たちには時が残り少ないという強烈な思いがある。朝、目が覚めると「ああ、きょうも目が覚めたな」夜寝る前は「明日はちゃんと起きられるだろうか」という思いの中にある。それでも私たちはこの年齢にして「心豊かな人生」「生き切ったぞ」という充実感を込めた可能性をもっているんです。

◆「ゴールデンエイジ」とは9～12歳あたりの著しい成長期のことを指すことは知っていますが、私たちは「今が最高」な毎日を送る、送ろう！と思っている男性の集まり。それがゴールデンエイジふくいなんです。

この言葉こそが私の制作目的の命題で抱えていた疑問の答えでした。この田中さんの言葉を受けて、番組はエンディングへと向かいます。私はナレーション原稿に、こう綴りました。

人は幾つになっても限りない可能性を秘めています。そのほとばしる可能性が歌声となって、輝きながら私たちの心に届き、胸をうちます。人はいくつになっても、生き生きと輝き続けることができる「ゴールデンエイジ」なのです。

おかげさまでギャラクシー賞では『人は幾つになっても成長し、輝き続けることを教えてくれた』として高く評価されました。

昨今、ラジオはオールドメディアと言われ、時代から取り残されたようなメディアになりつつあります。SNSでも短文の投稿やショート動画が隆盛の時代に、ラジオを聴き慣れていない人には10分番組でさえ長く、今回の90分番組(CM除いて85分)はそれだけで疲れてしまいます。そんな時代に、長時間の番組を聴いていただいた皆様には感謝しています。

この番組が合唱を楽しむすべての方々への生きる喜びになることを願っています。私もラジオを主戦場に、これから「人々の生きる喜び」を紡いでいきたいと思っています。今回は機会をいただきありがとうございます。

★ 参考 ★

【番組タイトル】 FBCラジオスペシャル
「輝！ゴールデンエイジふくい～生きる喜び 歌にのせて～」
【スタッフ】 ◎企画・取材・構成演出・編集／重盛政史
◎取材・リサーチ・ナレーション／松田佳恵
【放送日】 初回：2023年12月30日(土)13:00-14:30
再放送：2024年8月4日(日)16:00-17:30
F B C のホームページ <http://www.fbc.jp>

重盛政史 担当番組

<https://www.fbc.jp/radio/raditas>
https://www.fbc.jp/radio/raditas/raditas_2thu
https://www.fbc.jp/radio/raditas/raditas_2fri
F B C アプリ <https://www.fbc.jp/info/fbcapp>



radiko(ラジコ)は、スマートフォンやアプリ・パソコン・スマートスピーカーでラジオやポッドキャストが聴ける無料のサービス。ライフスタイルに合わせて様々なシーンで音声コンテンツが楽しめる。

●無料で使える機能●

機能1：ライブ機能／あなたの今いるエリアで現在放送しているラジオ局の番組を聴くことができる。

[放送エリアについて](#)

※ 有料の機能なら、国内のどの地域からでも日本全国のラジオ局の番組を聴くことができる。

機能2：タイムフリー／過去7日以内に放送された番組を、再生し始めてから24時間以内であれば、合計3時間まで、いつでも聴くことができる。

[タイムフリーの聴取期限について](#)

機能3：ポッドキャスト／聴取期限のない録音された番組のことで、オンエアされた番組の再編集版やスピノフ、オリジナル番組など、様々な音声コンテンツをいつでも楽しめるサービス。

機能4：シェアラジオ機能／番組のお気に入り部分(開始時点)を指定して、友人・家族やSNSのフォロワーに簡単にシェアすることができる。「この番組のこの部分を聴いてほしい！」という時に便利な機能。

機能5：フォロー機能／アプリのみ。お気に入りの番組をフォローすることで、毎回その番組の開始通知を受け取ることができる。



埼玉県合唱連盟／合唱と健康の集い実行委員会(略称Utaken)では「合唱は生涯学習。」として、合唱と健康をテーマにしたシニアのための合唱祭「彩の国シニアコーラスフェスタ」を11月25日(月)所沢市民文化センターミュージックで開催します。現在、自称50歳以上の団員の合唱団の参加を募集しています。またフェスタで演奏する彩の国プラチナ混声合唱団の募集も行っています。

詳しくは下記サイトでご覧ください。

<https://sclfrom1957.wixsite.com/utatoke>
[nkou](https://www.utatoke.com)

